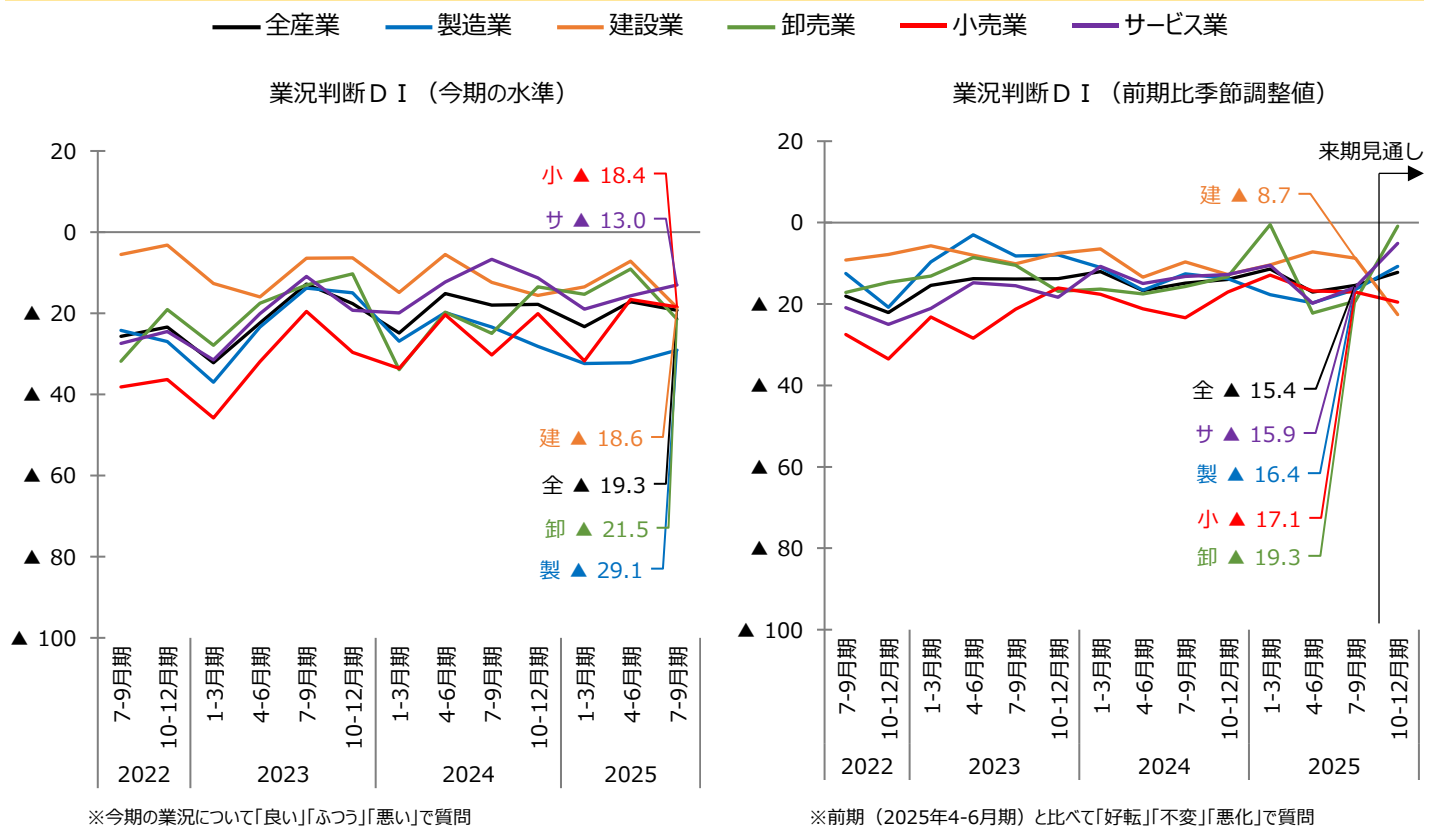


第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 北海道



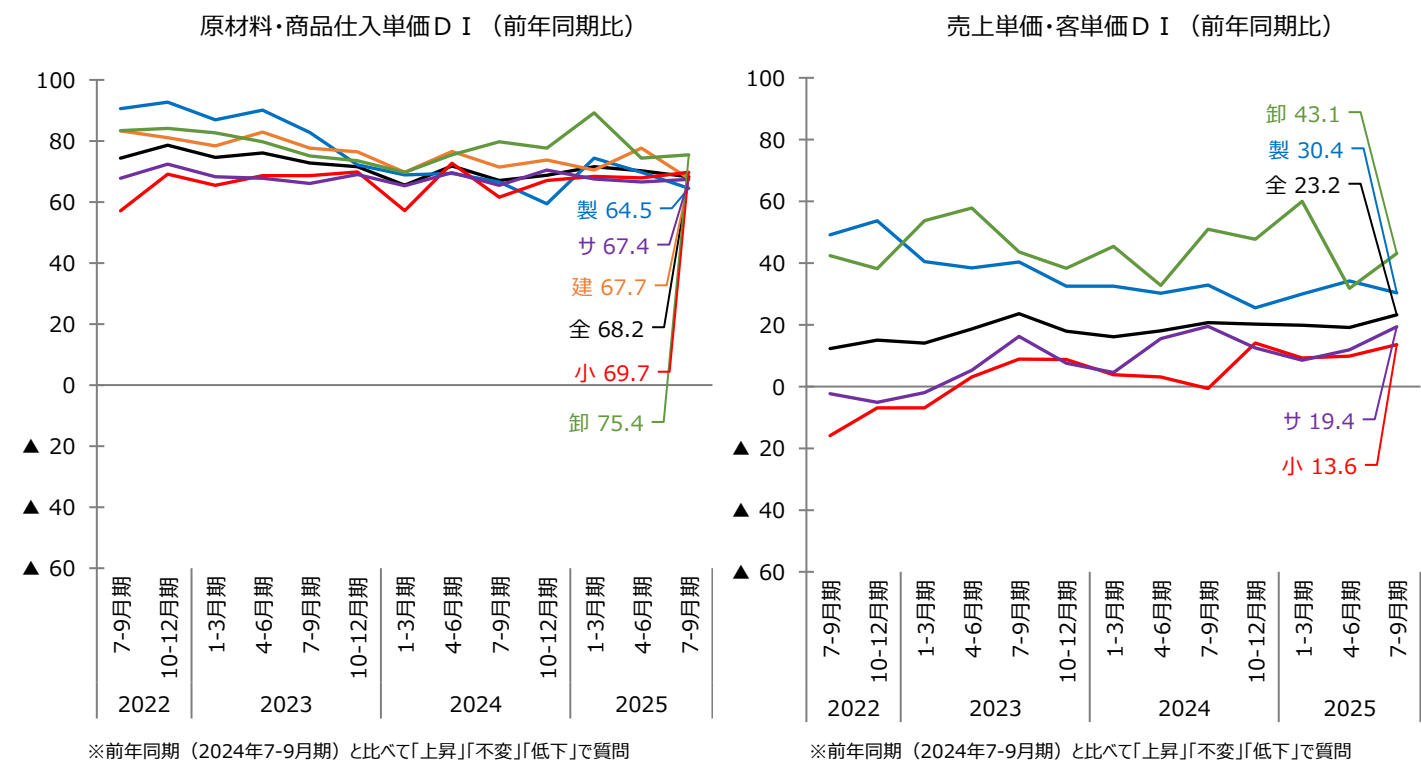
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より2.1ポイント減の▲19.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、サービス業で上昇し、卸売業、建設業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.0ポイント減の68.2と2期連続して低下した。産業別にみると、小売業、卸売業、サービス業で上昇し、建設業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.1ポイント増の23.2と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業で上昇し、製造業で低下した。



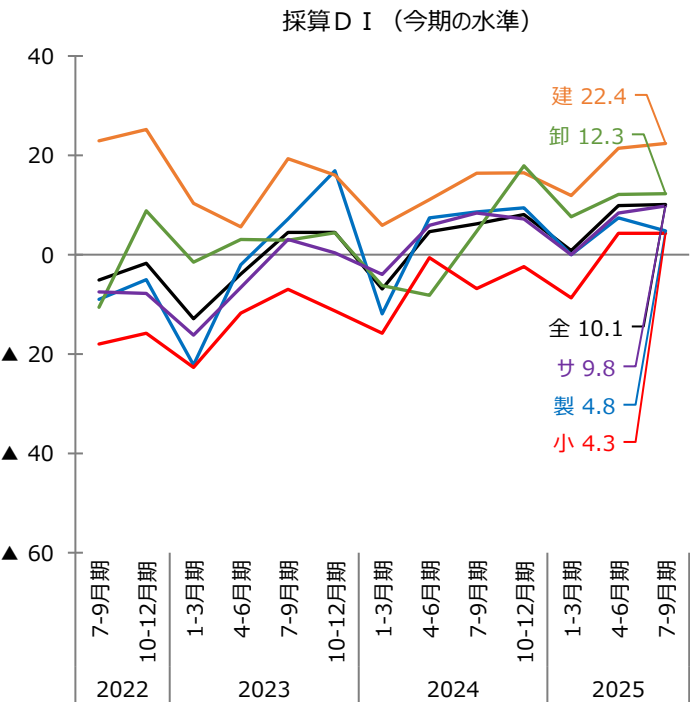
＜調査概要＞ 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、北海道：722企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

3. 採算

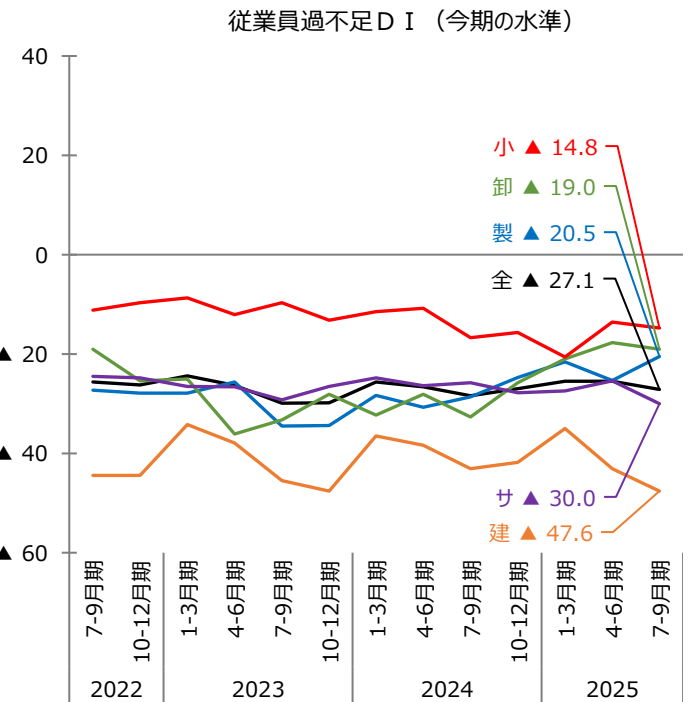
採算DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の10.1と2期連続してやや上昇した。産業別にみると、サービス業、建設業、卸売業で上昇し、小売業は横ばい、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で1.6ポイント減の▲27.1で4期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、サービス業、建設業、卸売業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現 状	米価の値上がりにより、給食にパン食を求められる割合が増えたことは良い材料だが、小麦、バター等主要仕入れのコスト増や包装資材の高騰等、マイナス面が大きく全体としては業績が悪い。	製造業	パン製造業
	春の受注が好調で通年動く現場があり、その後の受注が選別できたことが業績向上に貢献。来期はこのような状況を見込めない。	建設業	一般土木建築工事業
	水産関係の受注が低下している。暑さの為か、7月は商品の動きが悪い。特に食品原材料部門が悪化。観光客が増えても、ホテル代が高いと言われている。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	生活経費が上昇し、米問題や気候変動も相まって消費マインドはかなり低下していると感じる。必要最小限に出費を控えている。	小売業	鮮魚小売業
	今期は例年と比べて外国人観光客が多く、国内客の数は維持という状況であったため、利用客数はプラスであった。来期は、学校団体の割合が増えるため、客単価が下降する。	サービス業	他に分類されない飲食店
見 通 し	現状大きな変化はないが、取引先からは見通しの厳しさを耳にする事が増えてきた。更なる人件費、原材料の上昇に加え、天候不順による材料の確保難という問題も出てきそうだ。	製造業	すし・弁当・調理パン製造業
	現状は以前からの案件が竣工した為、9月見込の完工高は前期比を上回る結果となったが、民間需要は停滞し、引き合いが減少する中で諸コスト上昇の影響もあり、今後は収益性が落ちる可能性が高い。	建設業	一般土木建築工事業
	協力会社の職人の確保が、高齢化により維持するのが難しくなっている。現状の協力会社は少人数で不利な環境であり、新しい職人を入れることは本当に困難である。弊社として今できることを考えていきたい。	卸売業	電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	同業者の高齢化が進み、お店を閉店する方が増えている。それにより顧客が増えているが増えすぎ感があり、忙しすぎる。今後も辞める同業者が増える見込み。	小売業	自転車小売業
	米国関税の影響がどのような形で表れるのか？ A Iを活用する動きがどのようになるのか？ 人手不足、高齢化、時短などの問題をどのようにクリアできるのか、賃上げへの対策も問題。	サービス業	パッケージソフトウェア業

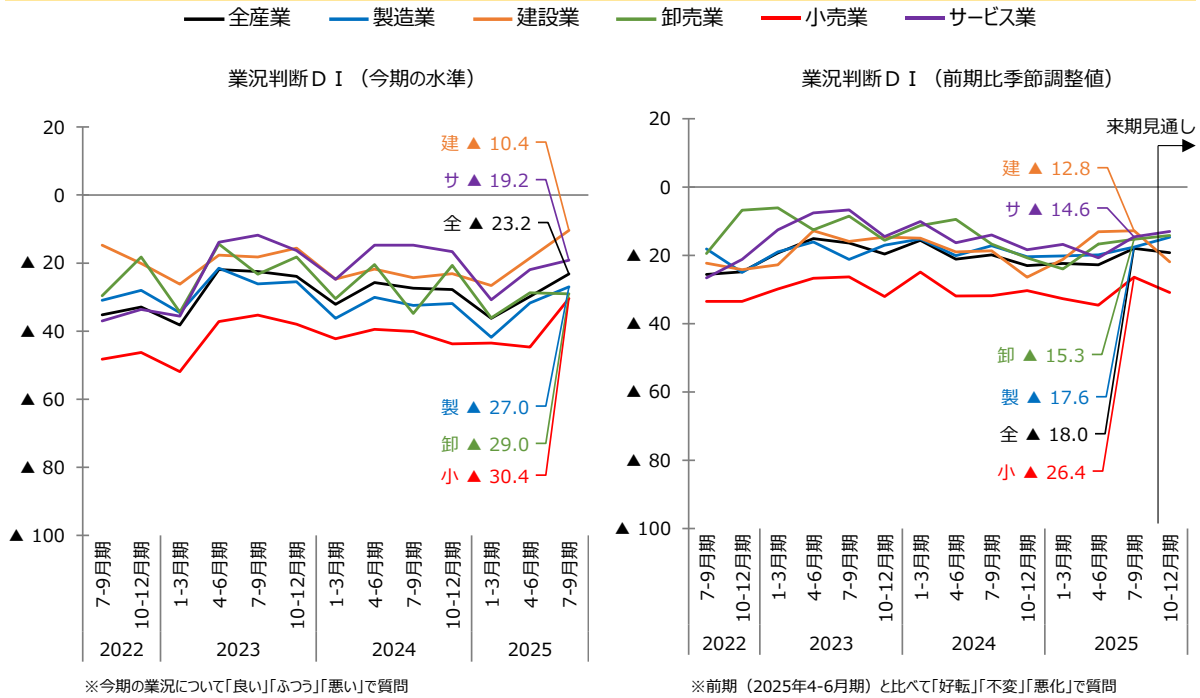
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 東北



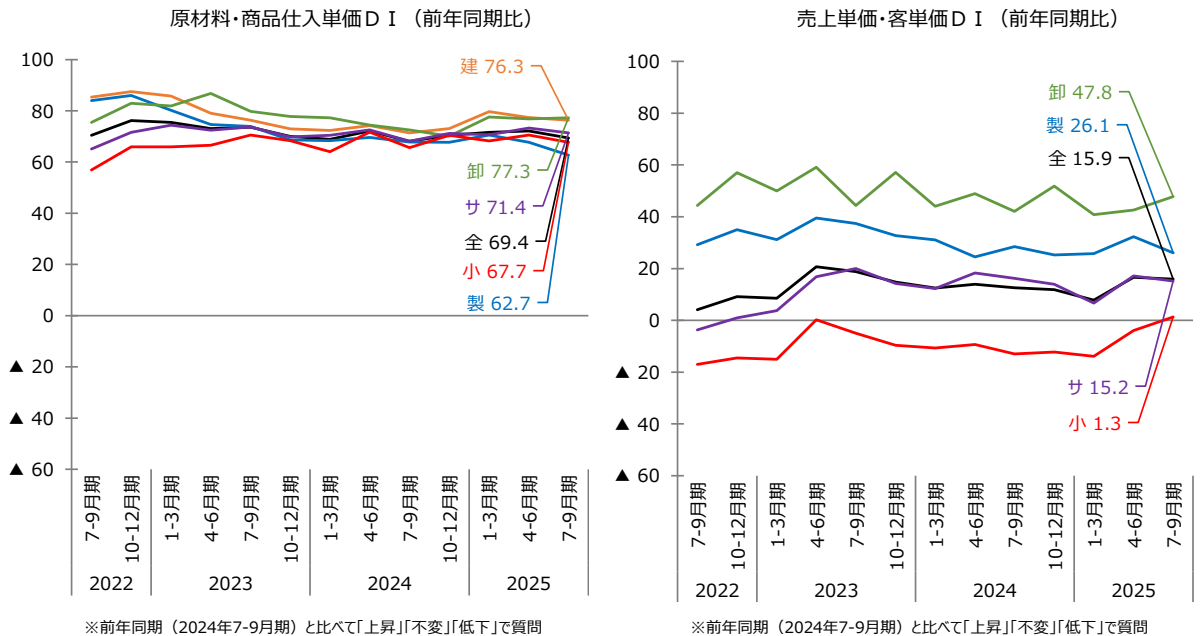
1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より6.6ポイント増の▲23.2と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、建設業、製造業、サービス業で上昇し、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.7ポイント減の69.4と低下し、4期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、製造業、小売業、サービス業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の15.9と2期ぶりにやや低下した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、製造業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、東北：1,839企業

※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 東北

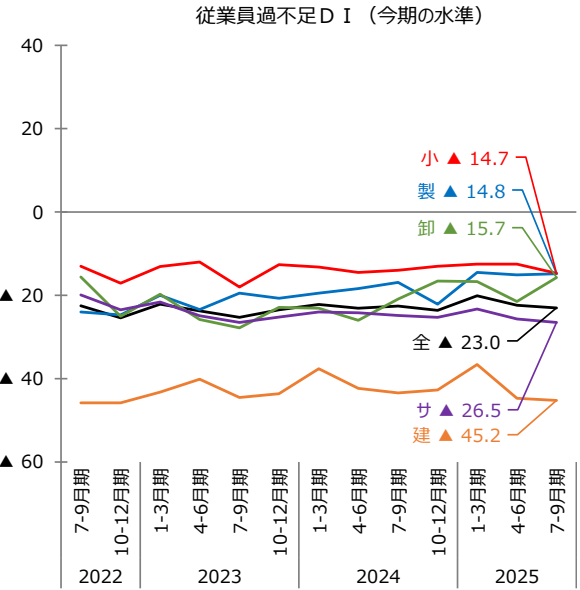
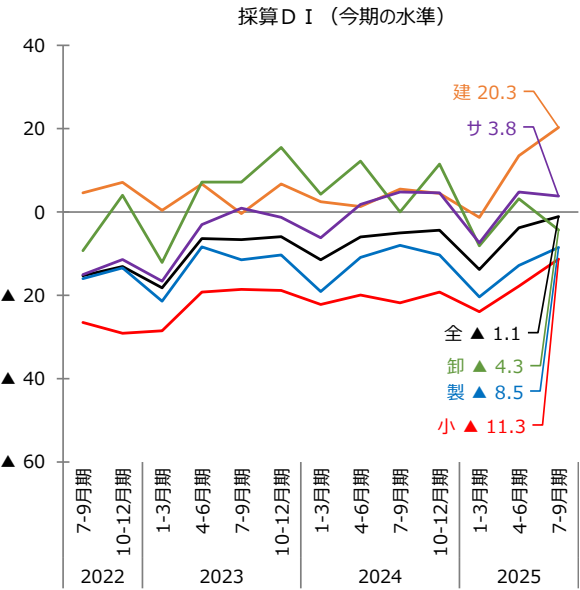


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.7ポイント増の▲1.1と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、小売業、製造業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.6ポイント減の▲23.0と2期連続してやや低下した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、小売業、サービス業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 東北の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現 状	業績はやや低調であるところ、人材不足にて外注費が増加傾向にあり粗利益を圧迫している。	製造業	看板・標識機 製造業
	公共事業費は前年並みに確保できているが、人手不足は変わらない。熟練労働者の減少から工事作業の効率が落ちたり、新規採用者の人件費高騰、官公需要の停滞と懸念材料は多い。	建設業	一般土木建築 工事業
	売上減少に歯止めからず、かつ農業従事者の高齢化及び高温により、入荷数量減少が継続しており、仕入、販売とも縮小が続いている。運賃等経費が増加しており業況は厳しい状況が続いている。	卸売業	野菜卸売業
	今期は酷暑の為、早い時期から空調機器が好調であった。お盆が過ぎても注文が来ているので仕事が切れないことがいい。	小売業	その他の各種 商品小売業
	今年度はキッチンカー営業を昨年度より増やしており、経常利益は黒字を確保している。新しくOPENされている店舗&キッチンカーの影響を少し感じている。	サービス業	他に分類され ない飲食店
見 通 し	ホタテ原料不足がとても影響しており、原材料単価高騰、人件費や経費の上昇とともに厳しい状況が続いている。生き残っていくために、自社ブランドの商品開発、新規分野への挑戦が急務となっている。	製造業	その他の水産 食料品製造業
	物価高騰に伴い高額商品（建物新築又はリフォーム）に対する買い控えが顕著に現れてきていると思う。	建設業	建築リフォーム 工事業
	可処分所得の減少による消費低迷で客単価・客数は減少し、生活必需品以外への消費者支出も落ち込んでいる。経費増大により仕入単価が上昇しているが、価格転嫁を行うと購買意欲が低下し、消費に結びつかない悪循環。	卸売業	靴・履物卸売 業
	暑さのせいか、外へ出たがらない人が多く、お盆も客数が減った。物価高のせいもあり、お客様も他へ流れていく。	小売業	食料品スー パーマーケット
	物価と人件費の上昇で利益が悪化している。世の中のニーズの変化への対応が難しい。地元のお客さんが望む店舗をめざして検討して行く。	サービス業	その他の専門 料理店

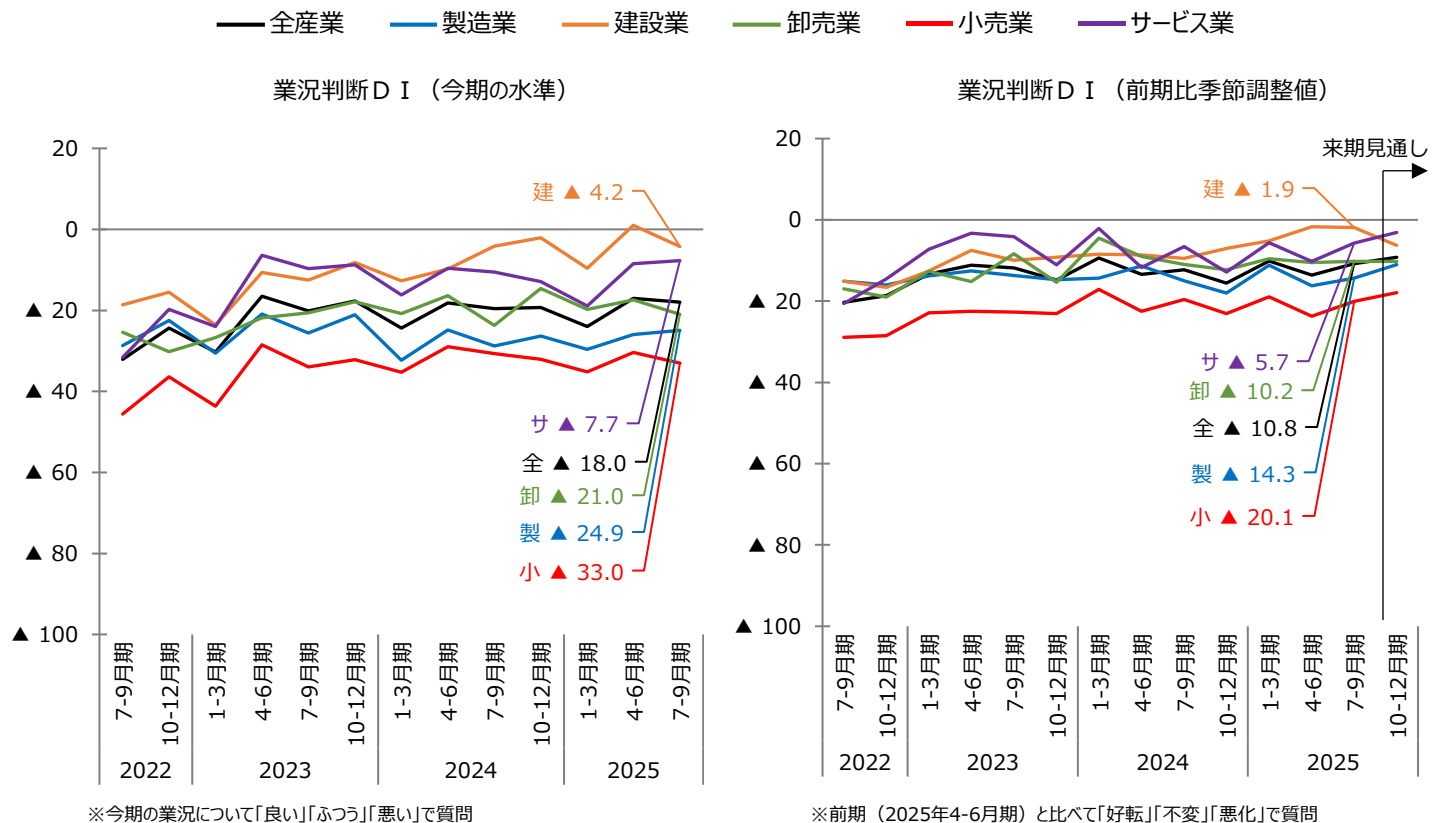
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 関東



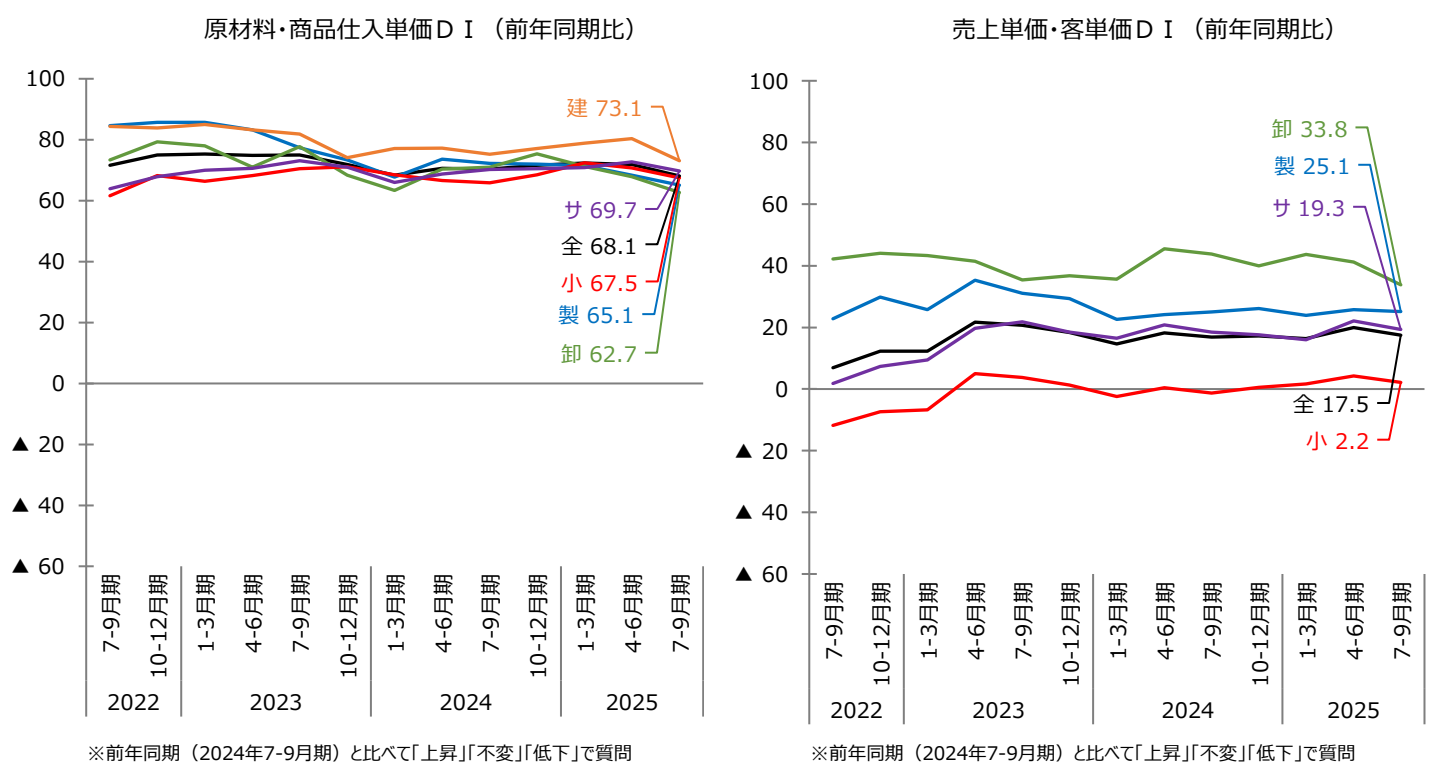
1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より1.0ポイント減の▲18.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、サービス業で上昇し、建設業、卸売業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.8ポイント減の68.1で2期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の17.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、関東：4,843企業

※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 関東

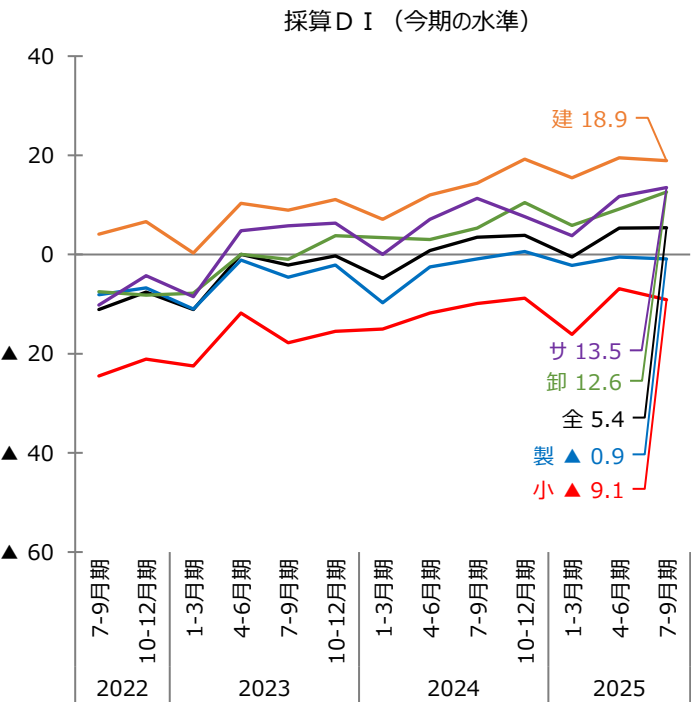


3. 採算

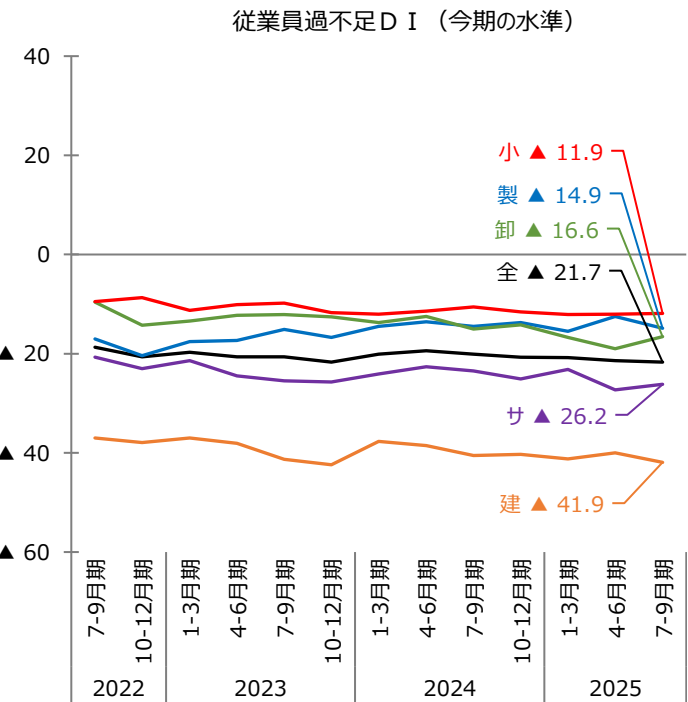
採算DIは、全産業で前期より0.1ポイント増の5.4と2期連続してやや上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、小売業、建設業、製造業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.3ポイント減の▲21.7とやや低下し、5期連続して低下となった。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業で上昇し、製造業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	価格転嫁の安定、新規顧客の開拓で売上増。利益を生まない固定費の見直しを実行。社内人材の活用と求人アプローチの改善。	製造業	段ボール製造業
	外仕事の為、従業員への暑さ対策が大変である。引き合いは活発だが、異常な気温上昇の為、仕事を控えめに請け負っている。	建設業	塗装工事業（道路標示・区画線工事業を除く）
	野菜の産地で夜の気温が下がらず、昼間との寒暖差が少ないため、野菜の生育に大きな影響が出ている。また、猛暑にて野菜の種類によっては成長過程で腐る事態に陥っている。	卸売業	野菜卸売業
	夏休みシーズンとなり、ホテルや飲食店などの販売数は伸びているが、仕入れ価格や電気、水道、ガスなどの燃料費の高騰から、あまり利益に結びついていない。単価を引き上げることができず、皺寄せを受けている。	小売業	食料品スーパーマーケット
	夏場は意外と揚げ物需要が多く、前回調査時点のみならず昨年同時期よりも売り上げを上げることができた。一方で、卵や野菜、そして米の価格高騰が現在の懸念材料である。	サービス業	食堂、レストラン（専門料理店を除く）
見通し	加工技術を持った高齢の方が、後継ぎがいらないなどで機能しなくならないように、事前に対策を取っておかないと継続受注が出来ない案件が増えてくる可能性が出てくる。	製造業	他に分類されないその他の製造業
	材料費や人件費の高騰、人材不足により業務が停滞し、安定した受注確保と収益改善が大きな課題となっている。	建設業	一般電気工事業
	円安の影響が続いているため利益率の改善には繋がっておらず、更に美容消費の低迷も感じている。A Iを活用し営業戦略を再構築している。	卸売業	医療用品卸売業
	地域の夏祭りや自治会の納涼祭・ゴルフ大会と声が多くこの期は例年良くなる。規模は小さいながらも新しいお祭りの開催が複数あり地域にとってもこれからも続いて行けばと思う。	小売業	他に分類されない飲食料品小売業
	物販用ヘアケア商品の仕入れ価格上昇に伴いどんどん値上げせざるを得ないため、お客様の購入頻度が下がっていると感じている。値上げ後の値段に慣れて購入頻度が戻るという。	サービス業	美容業

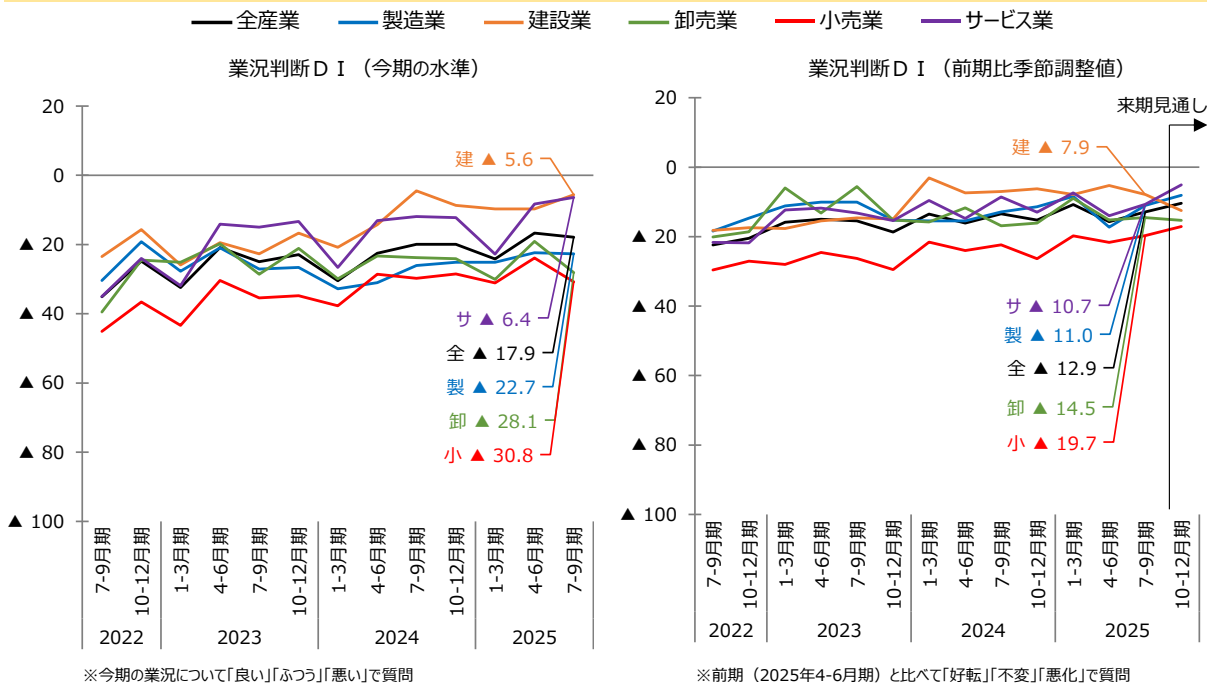
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 中部



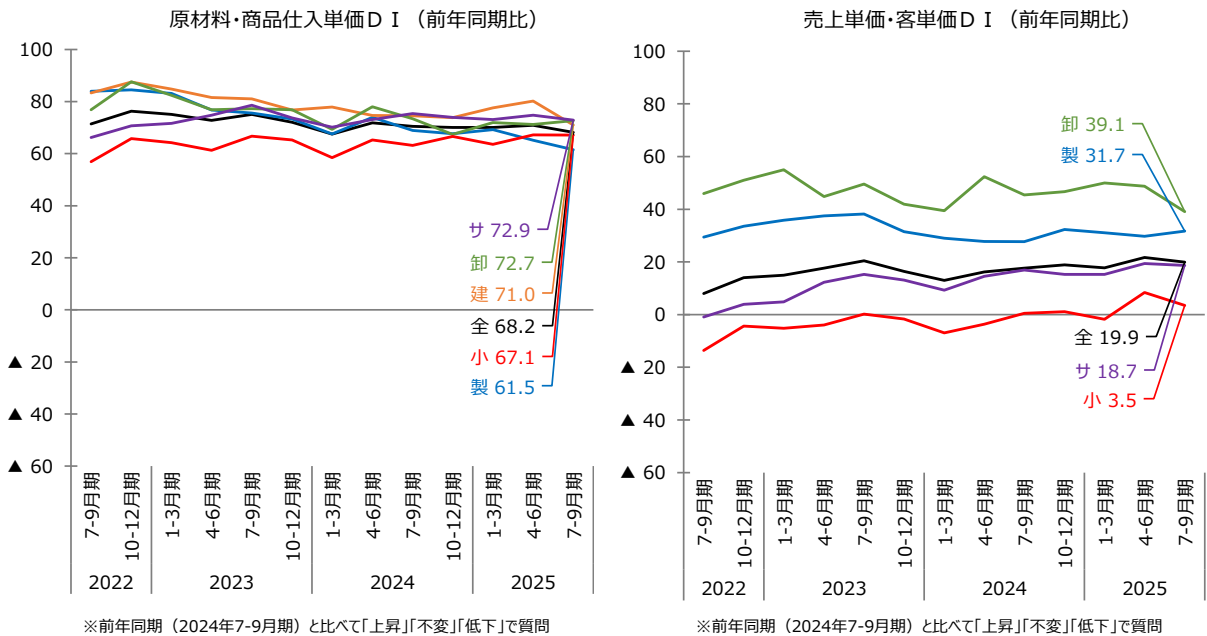
1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より1.2ポイント減の▲17.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、小売業、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.7ポイント減の68.2と3期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、建設業、製造業、サービス業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.8ポイント減の19.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、中部：2,285企業

※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 中部

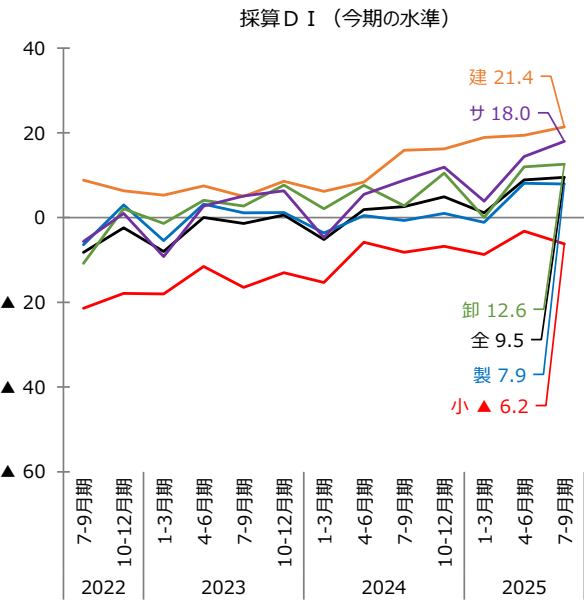


3. 採算

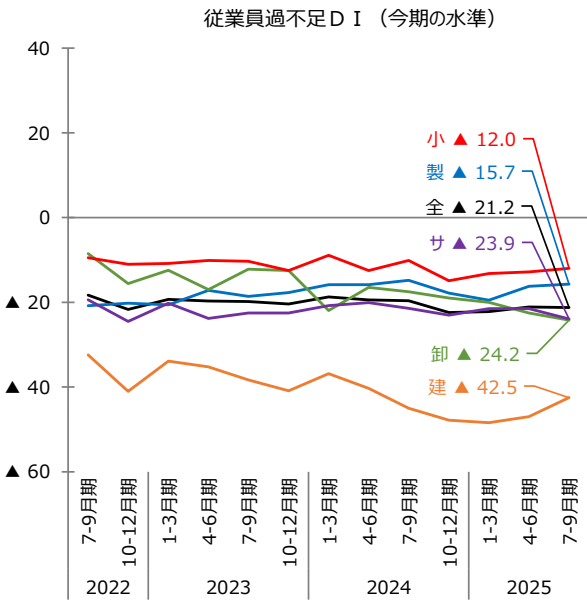
採算DIは、全産業で前期より0.6ポイント増の9.5と2期連続してやや上昇した。産業別にみると、サービス業、建設業、卸売業で上昇し、小売業、製造業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲21.2と3期ぶりにやや低下した。産業別にみると、建設業、小売業、製造業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中部の中小企業の声

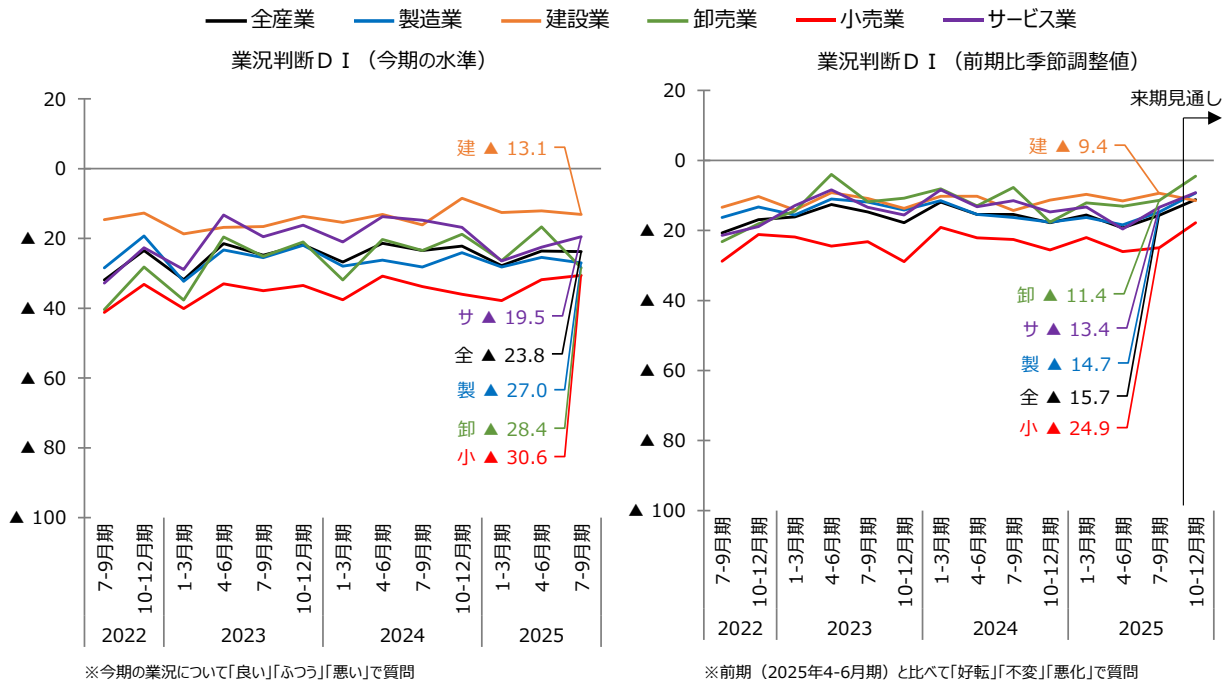
業況判断の背景		業種	
現状	木造住宅の新築が減っているため、木材の売上げが低迷している。	製造業	一般製材業
	能登方面での新築・修繕工事が今春より大幅に増えた。また物件数・工事量の増加にあわせて元請の受注金額も割と強気な金額を提示している様である。これまでの物価上昇・人員不足もあり大幅な利益増に繋がっている。	建設業	板金工事業
	物価高、社会保障などの税収増による経済不安が多く、1月以降の消費控えが顕著。消費サイクルの悪化や低価格商品への移行などの消費変化が収まらず、生活への不安から節約志向品、サプリメントには大きく影響。	卸売業	化粧品卸売業
	コーヒー豆の仕入れ価格は上昇基調にあるものの、販売価格に価格転嫁できており問題ない。地域の小売店と連携し、店舗での物販を強化することで、お店のファンづくりを推進しており、目標を超える業況にある。	小売業	食料品スーパーマーケット
	依頼減少の背景には、料金やAI・スマホなどでの自前撮影、広告不況に加え担当者の定年や社長の代わりといった取引先の事情も影響していると考えられる。	サービス業	商業写真業
見通し	弊社の強みである航空宇宙産業は、地政学的な背景もあり、今後10年近くは高水準で成長が見込まれる。その先の製造業においてはAIの発展により競争力のない時代に入ると想定され、成長産業に注力すべきと考える。	製造業	金属工作機械製造業
	受注高、完成高ともに維持しているが、働き方改革による労働時間削減により、限られたスタッフで業務をこなさなければ厳しい状況が続いており、業務の平準化をすべく対策を考えるべきである。	建設業	一般電気工事業
	インバウンド需要による業況の好転が多少あるものの今後の継続的な需要が不明。国内需要とインバウンド需要が混在しているターゲットの増加による製品数の増加。金などを使った一部製品単価の上昇幅の先行きが不透明。	卸売業	陶磁器・ガラス器卸売業
	商品単価の急上昇でお客様の購買力が低下して困っている。毎年上昇する人件費にも困っている。物が売れているのではなく、単価上昇による売り上げ安定である。	小売業	その他の各種商品小売業
	たまたまマスクで取り上げてもらい、それが来客数の増加につながっている。しかし、この状況がいつまで続くか、一過性で終わるか、そのまま続いてくれるか分からない。	サービス業	食堂、レストラン（専門料理店を除く）

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 近畿

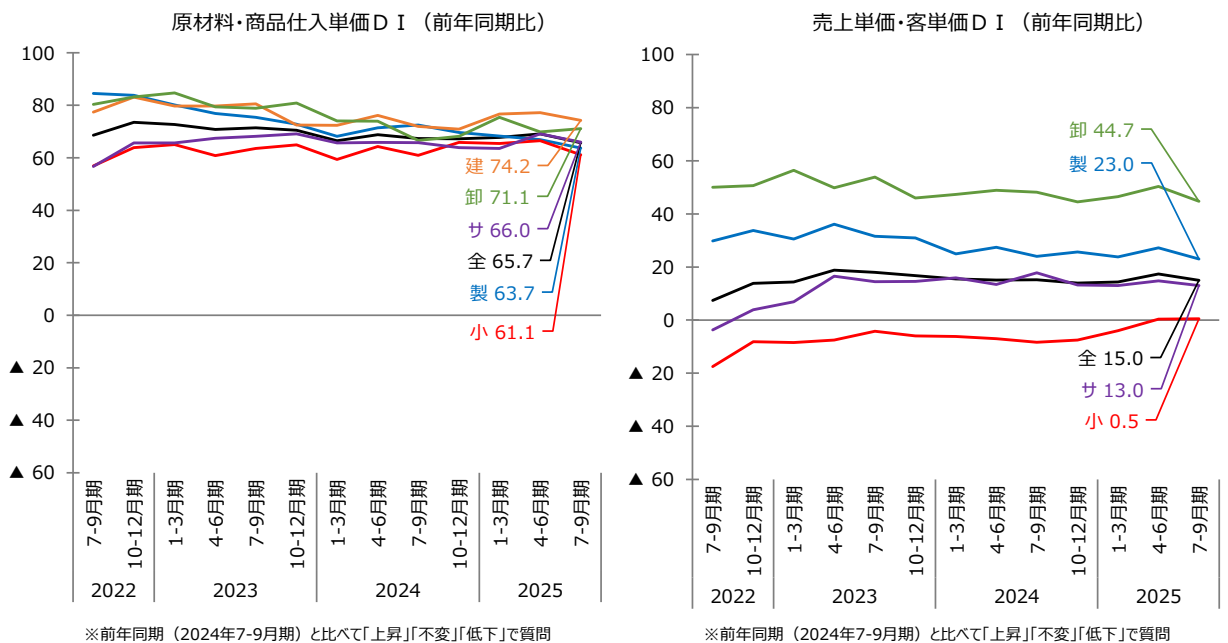
1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より0.2ポイント減の▲23.8と2期ぶりにやや低下した。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、製造業、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.4ポイント減の65.7と3期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、製造業、サービス業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の15.0と3期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、製造業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、近畿：2,557企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 近畿

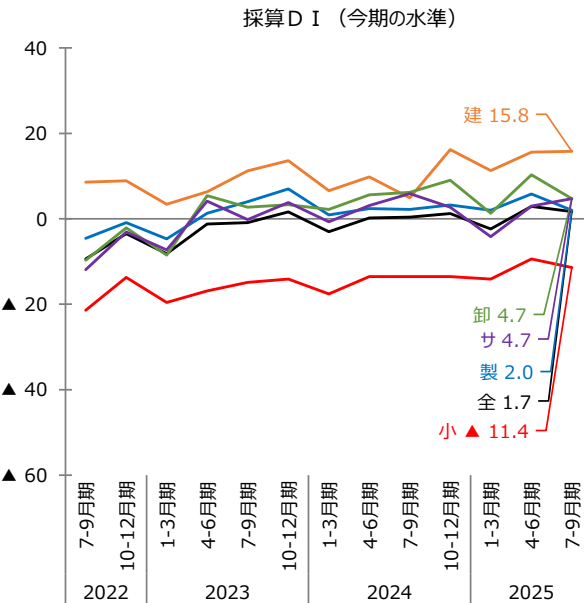


3. 採算

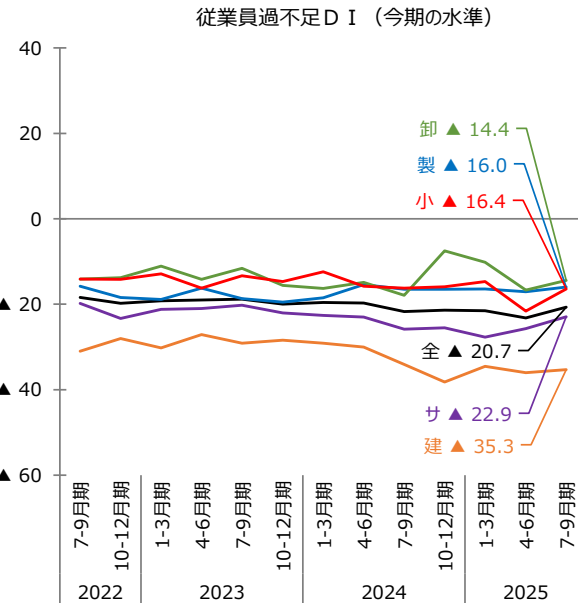
採算DIは、全産業で前期より1.2ポイント減の1.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業、建設業で上昇し、卸売業、製造業、小売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.5ポイント増の▲20.7と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 近畿の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現 状	今夏は例年以上の猛暑日が続き、観光地等での売上が鈍っているように感じる。また食品の値上げについても限界がきているように感じる。	製造業	豆腐・油揚げ製造業
	土地や建物の物価高騰の影響が大きく、特に若い世代の人は新築で家を建てない傾向が強まっている。このような状態が続くのであれば、事業規模の縮小や持続性の課題が浮き彫りになる。	建設業	一般電気工事業
	在庫調整に進展、インバウンド需要増、堅調な設備投資等環境が好転し、前年度に比べ引き合いは増えている。今後は金利や賃金の上昇等によるコスト増加、米国関税の影響等に注視したい。	卸売業	電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	販売価格を改定したものの売上自体は変化ないことから、顧客の支持は維持できていると見られる。しかしながら、物価高や消費者の節約志向の影響もあり、今後の需要動向には引き続き不透明感が残る。	小売業	菓子小売業（製造小売）
	業界全体にコロナ禍の影響がまだ色濃く残る中、一定類の自然淘汰が進んだための利用者増であると考え。今後、あるかもしれない同業他社の参入により、目新しさに吊られて利用者の流出を抑えられる方策が必要である。	サービス業	リラクゼーション業（手技を用いるもので医業類似行為を除く）
見 通 し	人手不足に加えて人件費の上昇により採算的に困難である。熟練技術者や有資格者の確保は特に難しく、世代交代に差しかかる今の最大の課題である。製造機器の老朽化も進み何台かの買い換えを迫られている状況である。	製造業	医薬品製剤製造業
	引き合いは比較的あると感じるが、熟練技術者不足で迅速な対応が難しい。もう少し効率よく回せたら粗利の上昇も見込めるかと思われる。円滑に業務が回るシステムの構築が、熟練技術者の確保が必要。	建設業	給排水・衛生設備工事業
	米国の関税問題、影響で競合商品が在庫過多になるリスクを強く感じる。米国向けで生産している商品（ベトナム・インドネシア・中国等での生産）の流れ方に注視。	卸売業	その他の農畜産物・水産物卸売業
	気温の変化による影響を受けやすい農作物の不作は仕入れ価格の上昇へと繋がるだけでなく、今後、商品を製造すること自体、困難になる恐れがある。個人商店の看板商品が継続できなくなるのは痛手である。	小売業	菓子小売業（製造小売）
	現時点～今後1，2年後ということであれば多少の物価高や人件費コストを売上に転嫁できており問題ないが、今後のAIの発展による市場動向の変化や物価高、人件費の高騰と考えなければならぬと考えている。	サービス業	税理士事務所

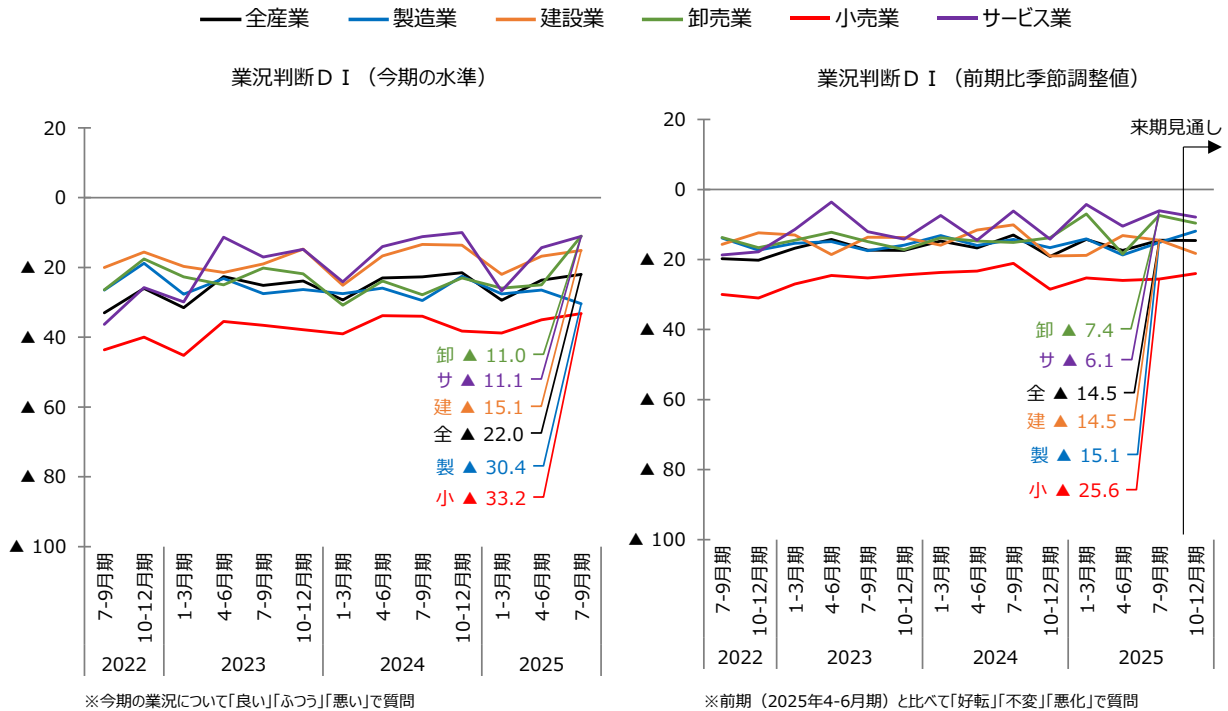
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 中国



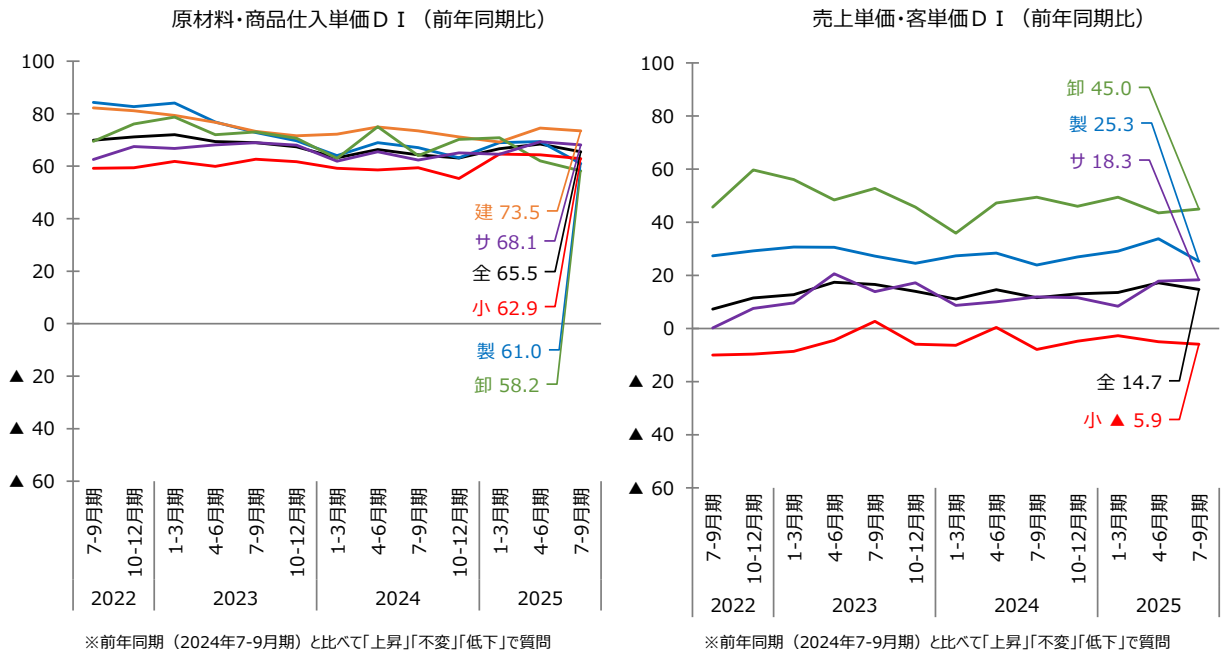
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より1.6ポイント増の▲22.0と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業、建設業で上昇し、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.9ポイント減の65.5と3期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.5ポイント減の14.7と4期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、製造業、小売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、中国：1,645企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 中国

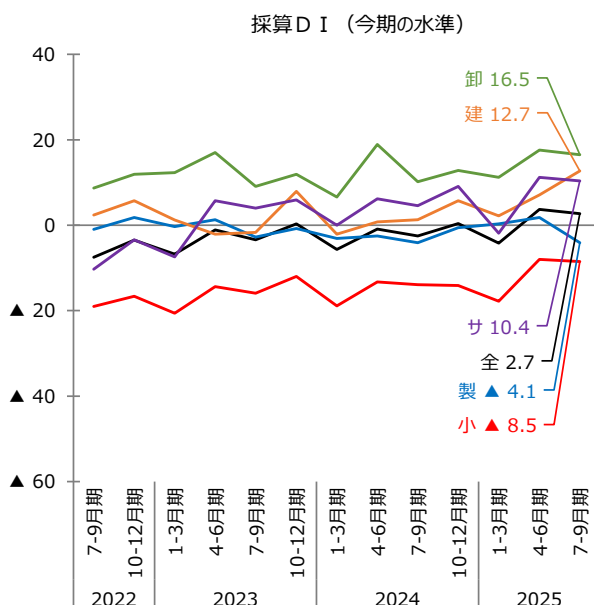


3. 採算

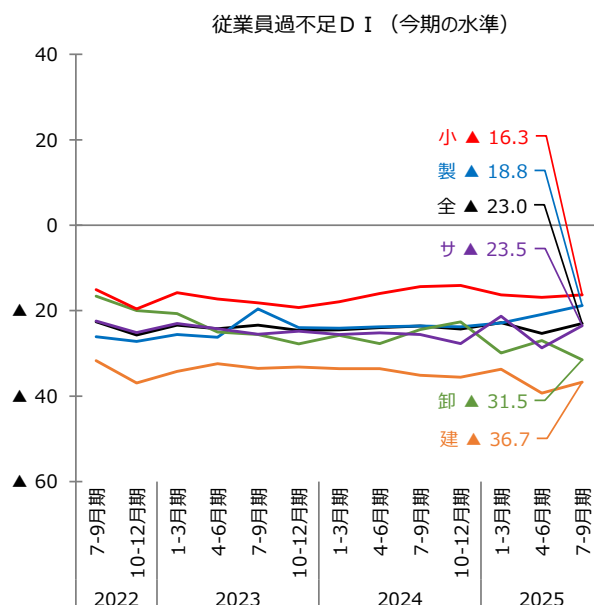
採算DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の2.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、製造業、卸売業、サービス業、小売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.3ポイント増の▲23.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、建設業、製造業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	従来からのメイン取引先からの受注量は若干減少気味であるが、その他の取引先が比較的安定しており、業績は概ね安定して推移している。原材料価格の上昇が順調に加工単価に反映できるかどうかが今後の最大の課題。	製造業	他に分類されない金属製品製造業
	省エネの流れから工事は公共・民間とも好調であり、雇用促進もしていきたいが、最近では募集に対して応募が無く、従業員を確保するための工夫が必要と考えている。	建設業	一般電気工事業
	取扱商品の値上げにより売上高は上昇しているが、販売点数は苦戦している。人員不足が負担になっている。	卸売業	酒類卸売業
	今年も暑い日が続き、アイス等の氷菓子等が昨年以上に売れている。その反面、暑さのせいで来客数、食料品の売上、ともに減っており全体的に売上も減少している。	小売業	酒小売業
	猛暑の影響により、写真婚、各種前撮りを顧客が避けた感があり、売上高が伸びず、大変厳しい状況であった。現在、10月以降の顧客獲得に向け従業員全員で、営業活動に取り組んでいる。	サービス業	美容業
見通し	原材料及び光熱費等高騰に伴い、利益は減少し不景気感がある。今後お土産物等観光客向けの開発をし、売上を伸ばしていきたいと思っている。	製造業	パン製造業
	原材料価格や外部人材の外注費は上昇傾向にあるが、現状ではその上昇分を幸いにして価格に反映出来ている。今後も価格に反映することを念頭に営業活動をしていく方針である。	建設業	土工・コンクリート工事業
	人件費を始め、時代に合わせて設備投資を、継続していく必要が有る。付加価値の有る商品を、販売の主役に置き、お客様からの信頼を高めて行く。高粗利も追及する。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	来店客数が減少している流れはあるが、WEBサイトでの販売が少しずつ増えてきているので上手く活用しながら店売り分をカバーしていきたいと考えている。内装工事を伴う家具（別注）は今後もSNS発信したい。	小売業	家具小売業
	売上は好調だが人件費が多く経費も膨れ上がり、8月決算では赤字で着地予定。退社するスタッフがいるため、人件費等が減少し来期の状況は好転の予測。繁忙期の人手不足は外注で補う等、工夫をして来期を乗り越える。	サービス業	社会保険労務士事務所

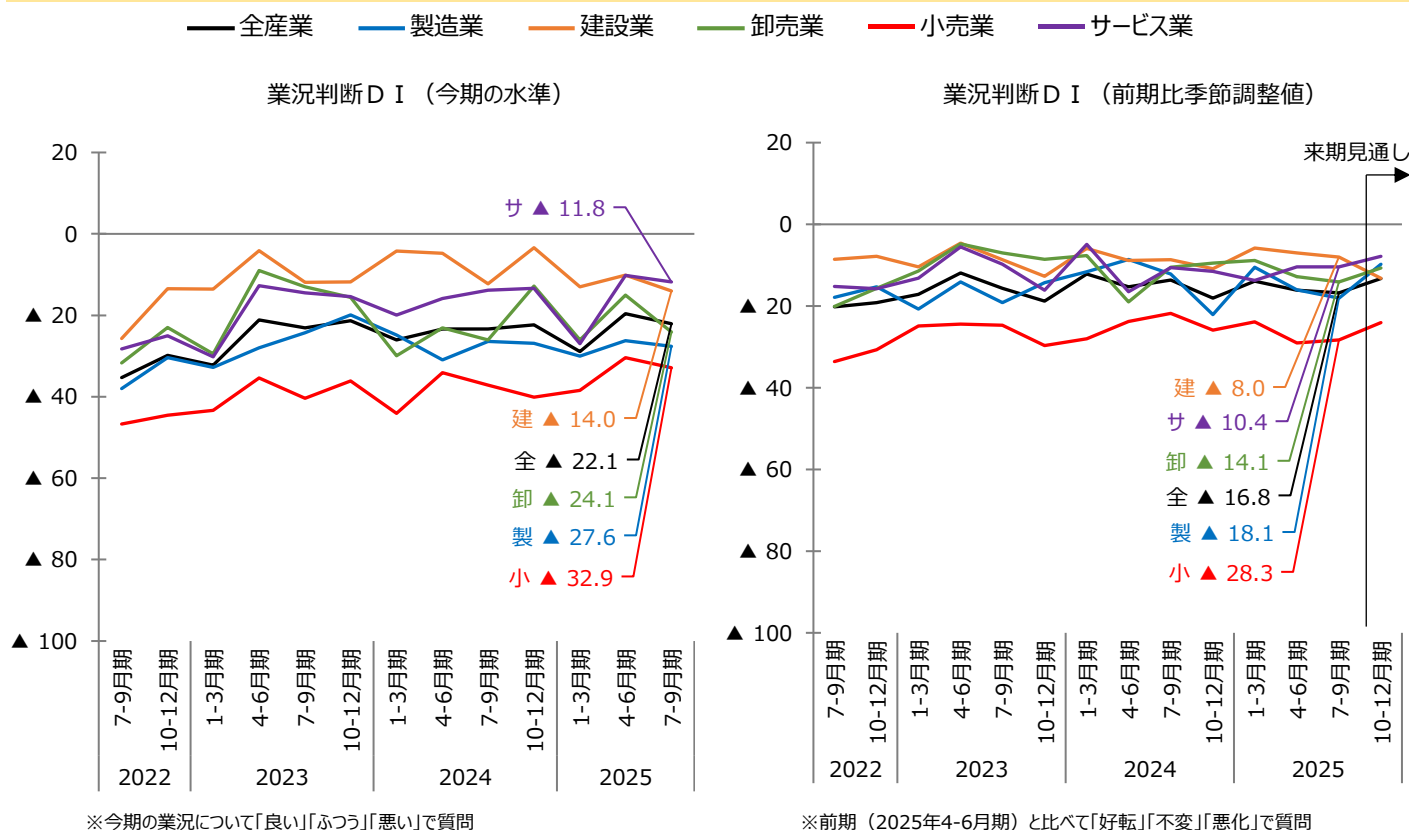
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 四国



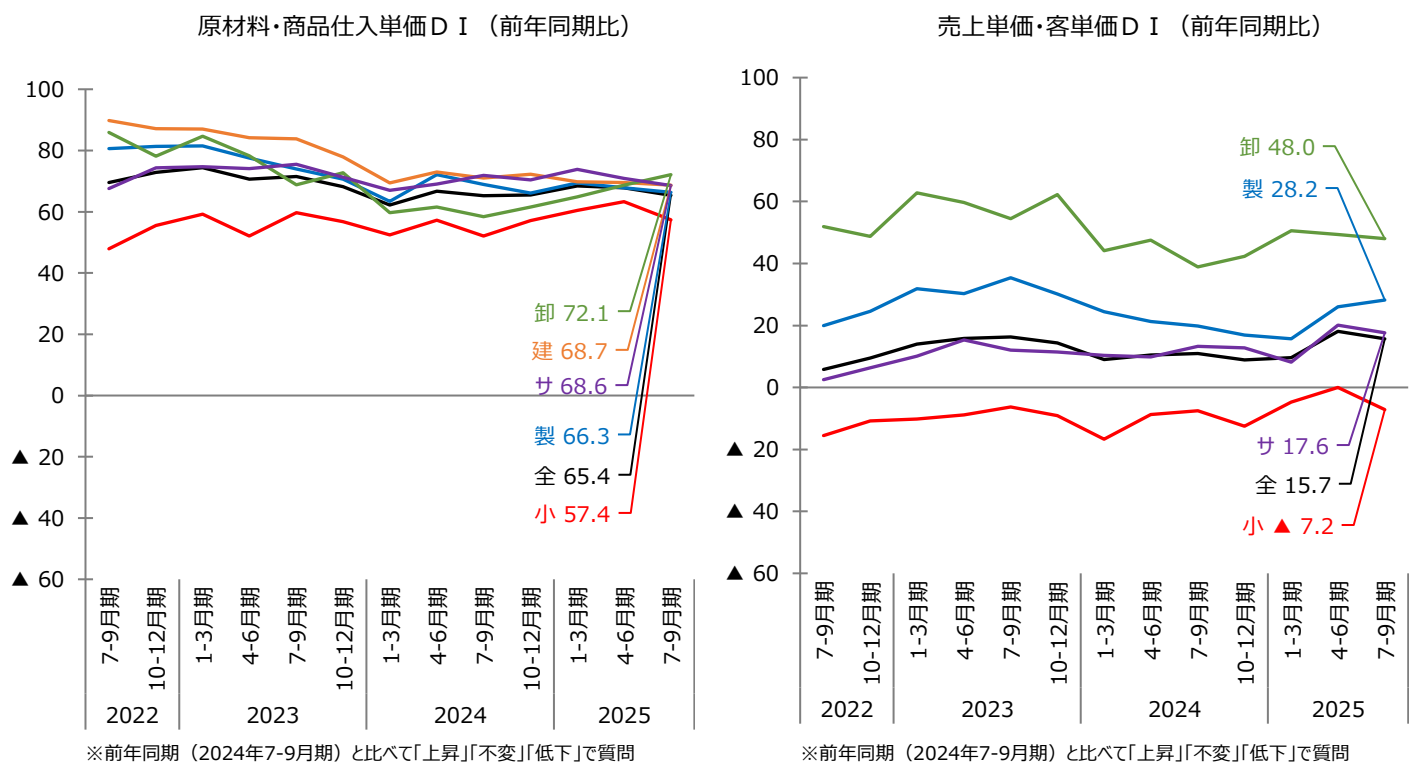
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より2.5ポイント減の▲22.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5業種すべてで低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の65.4と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、サービス業、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の15.7と3期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、小売業、サービス業、卸売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、四国：1,292企業

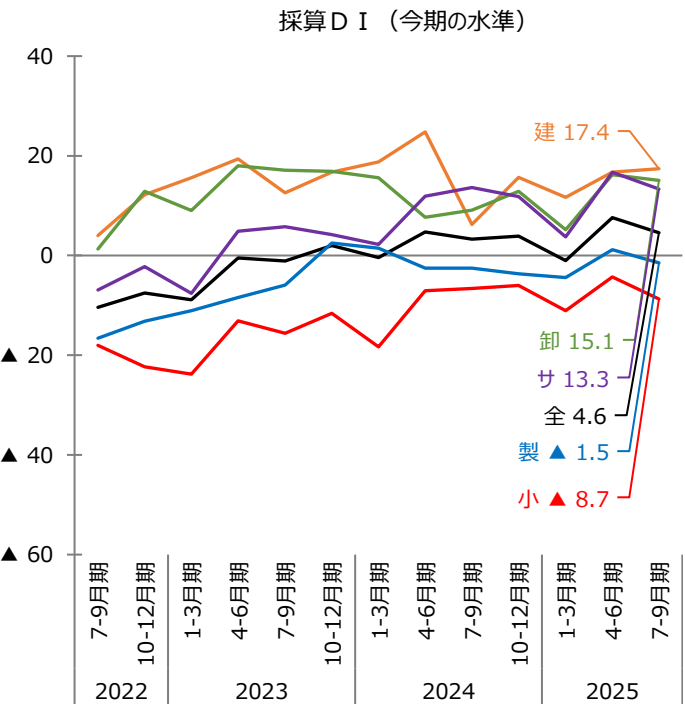
※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 四国



3. 採算

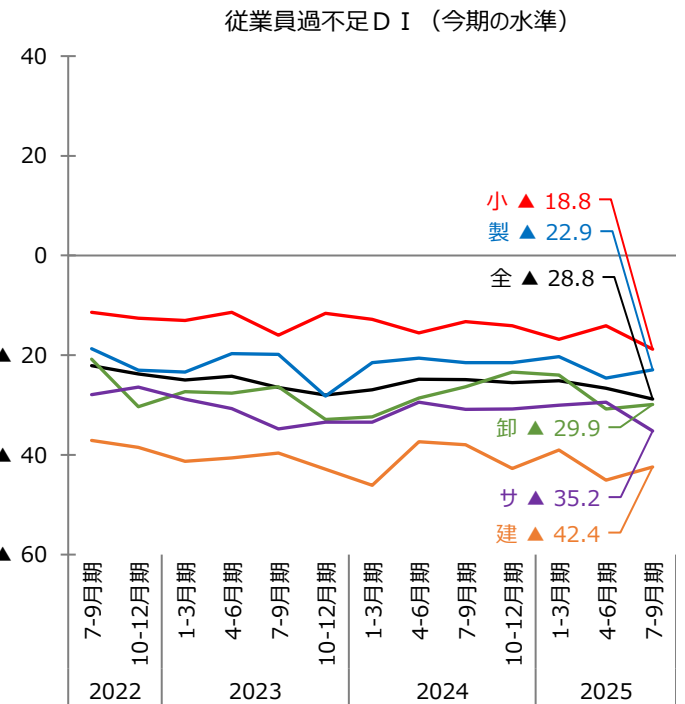
採算DIは、全産業で前期より3.0ポイント減の4.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、小売業、サービス業、製造業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.2ポイント減の▲28.8と2期連続して低下した。産業別にみると、建設業、製造業、卸売業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	設備の老朽化により故障が多く修理代が負担になっている。また、外注に出す為外注加工賃が多くなり採算が悪化している。	製造業	石工品製造業
	人的パワーが必要な業種であるため、従業員の確保難が売上の低調に直接響いている。かといって、未経験者を採用する体力はなく、経験者で年齢が適齢な都合の良い従業員はなかなかいないのが現状。	建設業	建築リフォーム工事業
	人口減少と高齢化で車輦台数が減ってきている。当面は不変であるが、将来的には下がっていくと見込まれる。	卸売業	自動車部品・附属品卸売業（中古品を除く）
	学生服は2～5月の販売がメインであり、その後いつも業況は悪くなるが、今年は6月からSNSを使い、オンラインショップにて布小物の販売に力を入れた結果、少しずつ売上が増加している。	小売業	他に分類されない織物・衣服・身の回り品
	宿泊料金の改定や物価高騰の影響等からコンスタントな宿泊者数の確保に繋がっておらず、この傾向が続くと想定している。また、悪天候などの影響でキャンセルがあったことも売上高減少の要因となっている。	サービス業	旅館、ホテル
見通し	人件費削減により経営に支障は出ていない。しかし、人件費を削減したことにより繁忙期は人手が足りず、残業時間が増加している。会社経営に余裕ができたなら体制を見直し、人手を増やすが現状は不可能。	製造業	畳製造業
	前年同期および前期に関してはほぼ横ばいで推移出来たが、来期の業況は受注見込み等の見通しが乏しいので、引合い・営業活動に取組み、受注・採算の強化を図ってきたい。	建設業	一般土木建築工事業
	ペーパーレス化の需要の停滞による売上減に加えて人件費の増加が経営を圧迫している。	卸売業	紙製品卸売業
	大変な暑さと物価高で来店客数と売上高の減少が続き、四苦八苦である。他店にはない、希少性というもの意識しながら営業を続けていく。	小売業	婦人服小売業
	宿泊人員は昨年対比で若干減少している一方、単価の改善により売上は維持している。ただし、あらゆるコストが継続的に上昇しており、採算が今後さらに悪化することを懸念している。	サービス業	旅館、ホテル

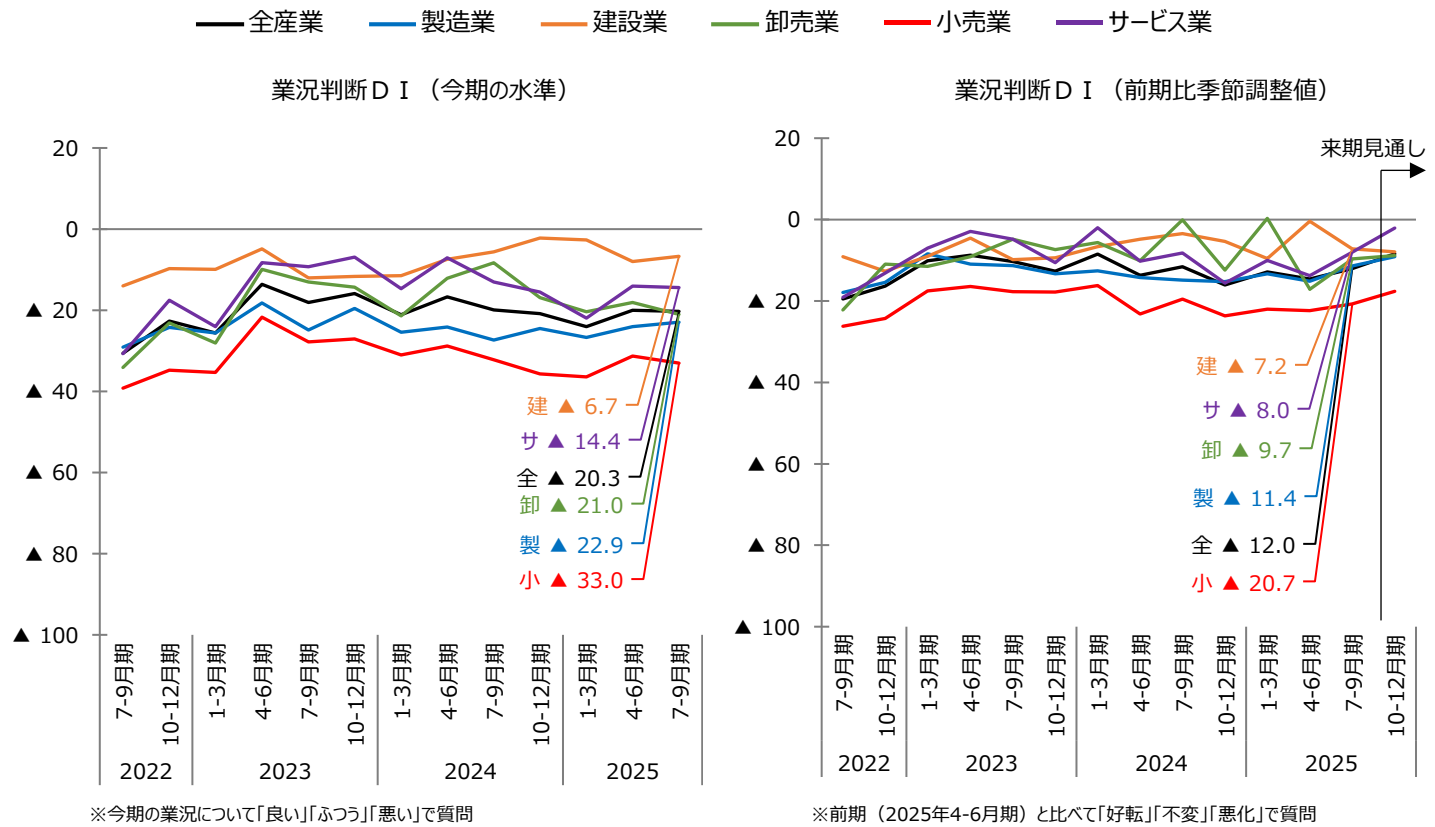
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 九州・沖縄



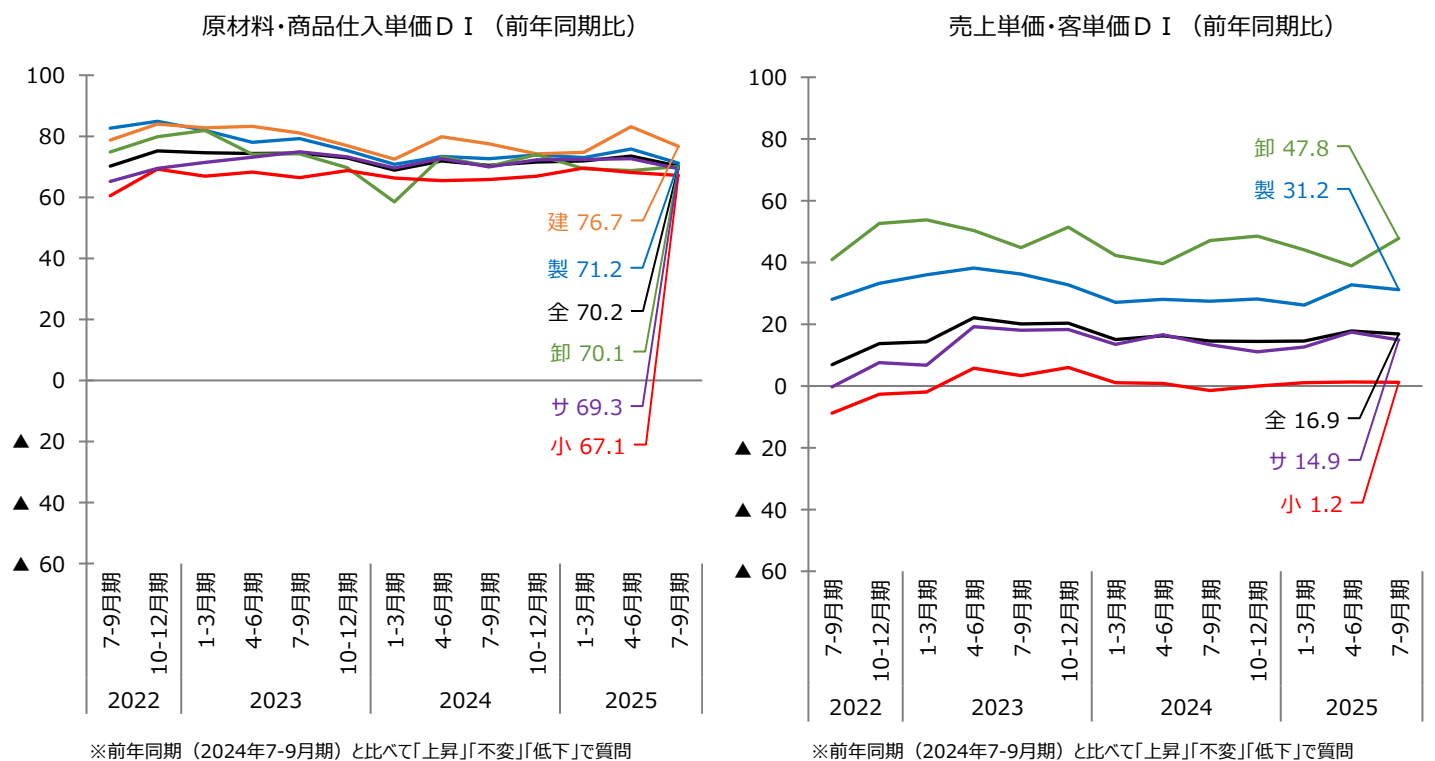
1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より0.3ポイント減の▲20.3と2期ぶりにやや低下した。産業別にみると、建設業、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.3ポイント減の70.2と4期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、建設業、製造業、サービス業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.9ポイント減の16.9と3期ぶりにやや低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業、製造業、小売業で低下した。



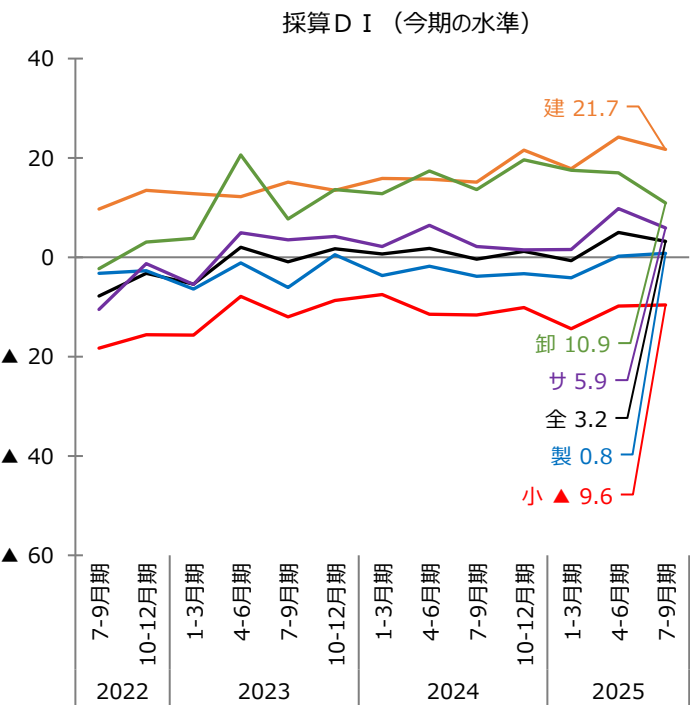
<調査概要> 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、九州・沖縄：2,773企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

3. 採算

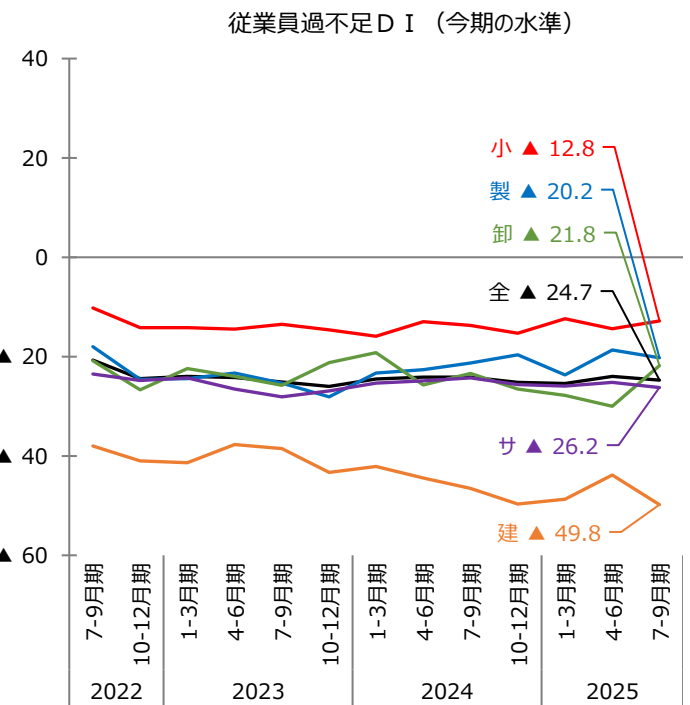
採算DIは、全産業で前期より1.8ポイント減の3.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、小売業で上昇し、卸売業、サービス業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の▲24.7と2期ぶりにやや低下した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、建設業、製造業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 九州・沖縄の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現 状	建築業は物価高騰により、新築・建売業・リフォーム業の仕事がない。機械等の修理など経費もかかる上、仕入価格も高騰しており、経営は難しい状態にある。	製造業	一般製材業
	生コン等価格の上昇が尋常でなく、2年で1.5倍以上。また木、プラ等の処分代も連絡なしで次々と値上価格で請求が届く。少しずつ建設業の形が変わっていることを実感。他社と差別化した技術の必要性を感じる。	建設業	造園工事業
	地元の生鮮スーパーや個人店などが、大手総合スーパーなどの進出により衰退した。大手さんの取り引き先は決まっいて、我々には新たな取引先がない状況にある。	卸売業	果実卸売業
	物価高騰が続き、嗜好品であるお酒などは買い控え、あるいは安価なものへと消費者の思考の変化があるようだ。又、昔ながらのお中元・お歳暮の習慣がかなり少なくなっている。	小売業	酒小売業
	暑さのせい、今年はスポーツ団体等の予約のキャンセルが多くあり、地元の工事も少ないので、県外からの滞在客が少なかった。	サービス業	旅館、ホテル
見 通 し	従業員不足だが、受注の落ち込みで、生産は、調整出来ている状況。損益としては、赤字が続いている。受注が戻ってきた場合は、生産が間に合わないことが目に見えているが、現状では、新規採用は出来ない。	製造業	銅・同合金鋳物製造業（ダイカストを除く）
	県内における建設ラッシュのため、受注見込みは多数あるが、資材費・人件費高の高騰は避けられない状況。工事の受注金額の増額が課題と見込まれる。	建設業	一般電気工事業
	価格転嫁が比較的受け入れられやすい環境から、収益的には好転しているが、数量は低下しており、ボリュームアップが課題である。	卸売業	米麦卸売業
	地域の人口減少とともに高齢化が進み購入金額の低下が著しい。新しいマーケットについてはネットを利用した形に益々移行していると思われる。新しい取引、新しいサービスを現地域でも取組み可能な形を模索である。	小売業	電気機械器具小売業（中古品を除く）
	辛うじて学生アルバイトが確保できているが、正従業員が少ないため、日によってはメニューを限定せざるを得ない状況である（調理できる従業員が確保できない）。先行き不安であるが、「今」を精一杯やるしかない。	サービス業	他に分類されない飲食店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)